

第 91 回接続料の算定等に関する研究会の議論を踏まえた
一般社団法人テレコムサービス協会MVNO委員会への追加質問及び回答
(移動通信分野における接続料等と利用者料金との関係の検証関係)

問 1 MN O各社による何をスタックテストの対象とするかのプレゼンについて、貴社として、必ずしも論理的に納得できない、理解できない部分について、コメント頂けると有難いです。

(佐藤構成員)

(MVNO委員会回答)

<株式会社NTTドコモ様のプレゼンに対する意見>

- 指針の改定は市場の競争環境変化を踏まえて行われているものと受け止めており、指針改定の前後で検証結果が覆り得る料金プランが存在する場合は再検証の可否についての検討は必要と考えます。

<KDDI 株式会社様のプレゼンに対する意見>

- p o v o 2. 0 (360GB/365 日) はデータ容量と費用を 1 か月あたりに換算した月額相当額 (2, 200 円/月) が MVNO の提供するプランを下回る、または近接しているものであり、MVNO の競合プランであると考えます。

<ソフトバンク株式会社様のプレゼンに対する意見>

- Y ! m o b i l e シンプル 2 M プランに対して各種割引を全額適用した最安価格は L I N E M O ベストプラン V の利用者料金を下回るが、スタックテスト指針に従って検証を行う際には各種割引が全額適用されず、シンプル 2 M プランがベストプラン V より安価で厳しい条件での検証となるとは限りません。

このことから、シンプル 2 M プランとベストプラン V の双方の検証が必要と考える。仮にどちらかを除外する場合には、どちらがより厳しい条件での検証となるのかは有識者会合にて検討することが望ましいと考えます。

- MVNO が MN O と同等の通信品質水準を達成するためには、現在確保している帯域よりさらに多くの帯域が必要になること想定され、現在の接続料水準では、MVNO が現在の利用者料金水準を維持しつつ、更なる帯域を確保する事は難しいのではないかと考えます。

問2 営業費相当額の算出方法について、直近5年間の平均値により算出することに一定の合理性があるとしても、直近3年間の平均値又は6年間の平均値により算出することについても同様に一定の合理性があると考えられる。どの程度の期間の平均値を用いることがより合理的と考えるかについて、論理的に説明していただきたい。

(佐藤構成員)

(MVNO委員会回答)

- 一般的に営業費は1年間分が年度の予算に計上されて執行されるもので、その中にはミクロな競争環境の変化は織り込まれるものであり、それが年度という単位で均されると見なせるのではないか。すなわち複数年で均す必要はなく、1年の平均値を取ることが至近の競争環境が適切に反映され、より実態に即した検証が可能になるものと考えます。